

不登校生徒を支援するアプリケーション考案のための調査

Investigation for Devising an App that Supports Absentee Students

(キーワード：不登校，支援，アプリケーション)

(Keywords: Absentee Students, Support, App)

山崎葉奈，吉岡聖美（明星大学）

kiyomi.yoshioka@design.meisei-u.ac.jp

1. 研究の背景と目的

私は小学5年から中学3年まで不登校を経験した。その間には様々な機会を失うことになったが、学校を休んだことによって得たかけがえのない思い出や経験もあったと思う。そのような経験を基に、不登校生徒が学校に行かないことによってできた時間を有効活用し、ゆっくりと自分に向き合い将来を考えることができるような支援ツールとして「不登校生徒を支援するアプリケーション」を考案することとした。本研究では、不登校の状況を整理し、また、不登校を経験した人にアンケート調査を実施して不登校期間の生活における問題や必要な支援を調査する。

2. 不登校の状況

不登校児童生徒は、令和2年において小学校6万3,350人、中学校13万2,777人となり、合わせて19万6,127人もの児童生徒が不登校という深刻な状況にある（注1）。文部科学省では、このような現状を踏まえて、小学校・中学校に配置するスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの充実を図ったり、自治体や民間団体とも連携を取りながら学校以外の学びの場を増やすなど、不登校児童生徒を支援する取り組みを行っている。しかし、不登校児童生徒は8年連続で増加しており、新たな対応策が必要と思われる。

3. 不登校児童生徒の生活や支援に関するアンケート調査

3.1 調査内容

「不登校生徒を支援するアプリケーション」の機能を検討するにあたり、不登校経験者を対象として不登校時の生活や支援に関するアンケート調査を実施した。調査は、Web を用いて2022年8月19日～9月22日の期間実施した。回答者は14人であった。

3.2 結果と考察

不登校の開始時期と終了時期に関する調査では、小学4年生と中学1年生の時期に不登校が始まるケースが多く、小学校で不登校が始まった人は中学2年生で不登校が終了しているケースが多くみられた（図1）。また、中学校から不登校が始まった人を含めて中学3年生で不登校は終了していた。これは、高校受験を控えて学校に戻って勉強について行かなくてはならないといった意識が影響した可能性があると考えられる。

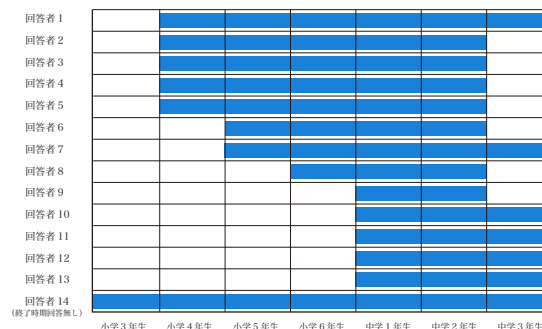
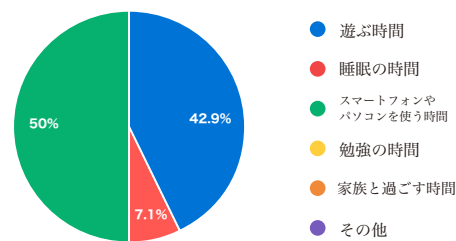


図1 不登校の開始時期と終了時期に関する調査

「不登校期間をどのように過ごす時間が長かったか」との問いでは、スマートフォンやパソコンを使う時間42.9%、遊ぶ時間50%、睡眠の時間7.1%という回答であり、ほとんどの生徒がスマートフォンやパソコンを使ったり遊んで過ごしていたことがわかった（図2）。

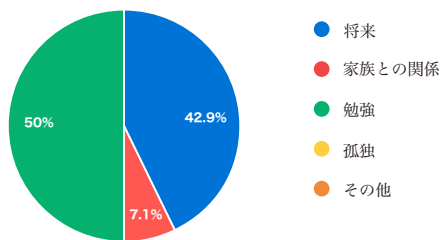


n=14

図2 「不登校期間はどのように過ごす時間が長かったですか？」の回答

上記のような過ごし方について、「この生活を見直したいと思ったか？」という問いには、回答者の全員が「見直したいと思った」という回答であった。

「不登校の期間中最も不安だったことは？」に対する回答では、勉強50%、将来42.9%、家族との関係7.1%となり、ほとんどの生徒が勉強や将来について不安を感じていたことがわかった（図3）。

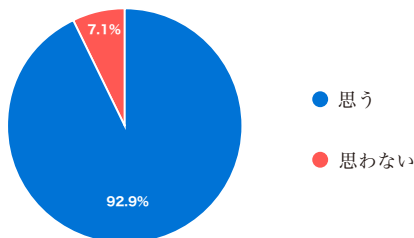


n=14

図3 「不登校の期間中最も不安だったことは？」の回答

不登校の児童生徒は、スマートフォンやパソコンを使ったり、遊んで過ごすといった生活をしていましたが、勉強や将来について不安を感じ、そのような生活を見直したいと感じていたと考えられる。

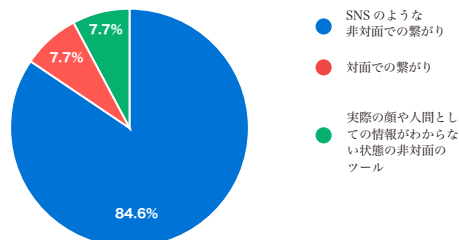
また、「オンライン授業に参加したいと思うか？」という問いでは、14人中13人が「参加したいと思う」と回答した(図4)。対面授業に参加することはできなくても、オンラインであれば参加できると考えていたことがわかる。



n=14

図4 「オンライン授業に参加したいと思うか？」の回答

「不登校の生徒と繋がりが持ちたいと思うか？」という問いに対しては、14人中13人が「繋がりをもちたいと思う」と回答し、「繋がりをもちたいと思う」と回答した人に「不登校の生徒同士で繋がりを持つ場合、どのような場やツールが利用しやすいですか？」と尋ねたところ、「SNSのような非対面の繋がりが」が84.6%、「対面での繋がりが」7.7%であった(図5)。不登校の生徒同士の繋がりにおいても、対面よりもSNSのような非対面での繋がりが求められていることがわかった。



n=13

図4 「不登校の生徒同士で繋がりを持つ場合どのような場やツールが利用しやすいですか？」の回答

4. 不登校生徒を支援するアプリケーションの考案

不登校期間の生活や支援に関するアンケート調査から、不登校の児童生徒は、スマートフォンやパソコンを使ったり、遊んで過ごすといった生活を送りながら、勉強や将来について不安を感じ、そのような生活を見直したいと感じていたことがわかった。また、オンラインでの授業に参加したいと考えていたことや、不登校の生徒同士で繋がりを持つSNSのような非対面の繋がりが求められている調査結果を踏まえて、「不登校生徒を支援するアプリケーション」の機能を検討した。その結果、生活を見直すきっかけとなる「時間割機能」、他の不登校の生徒と交流して悩みを共有し合える「SNS機能」、自宅での学びをカバーする「オンライン授業」、生徒が在籍している学校と繋がる「メール機能」を取り入れる必要があると考えた(図5)。

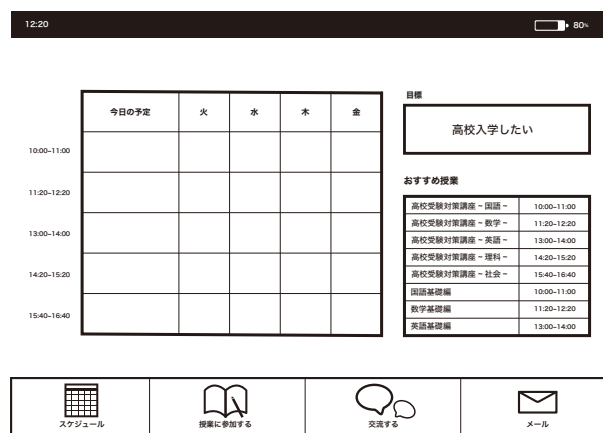


図5 アプリケーションのトップページ

注および参考文献

1) 文部科学省『令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要』

https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-10002753_01.pdf (2022.12.13 閲覧)